

## 事業終了報告書

平成30年11月16日

特定非営利活動法人

環境リサイクル肉牛協議会

1. 事業名称：15回資源循環型肉牛生産シンポジウム2018  
日本産肉研究会第22回学術集会同時開催  
テーマ：「家畜の福祉と牛肉生産」

### 2. 事業目的：

わが国の肉牛生産は、平成20年から始まった輸入飼料価格の高止まりや子牛不足による素牛価格高騰などの厳しい状況にさらされ、肥育牛出荷頭数の減少が続いています。このような国産牛肉供給量の減少を反映し、枝肉価格は上昇しているが、それを牽引しているのは外国人観光客の増加に伴うインバウンド需要の増大や堅調な輸出需要などであり、需要の3割を占める家計消費は減少傾向が続いています。

近年、牛肉生産は経営規模が大型化するとともに、生産方式の規格化が進んでいます。そのような生産方式の中で、牛本来の生理に基づいた飼い方がなされているか、適切な飼養環境が維持されているか、飼料の安全性が確保されているかなど、まだ十分検討されていない課題が多々あるものと思われます。そこで、本シンポジウムでは、家畜福祉の観点から現行の牛肉生産システムについて検討し、議論を深め、将来の牛肉生産の一助としてゆきます。

本シンポジウムは毎年、環境リサイクル肉牛協議会、北海道アンガス牛振興協議会および北海道短角牛振興協議会が主催しているが、今回は、日本産肉研究会の第22回学術集会および帯広畜産大学との共同開催となりました。シンポジウム開催15回目に当たり、家畜の福祉と牛肉生産の展望について、生産者、消費者、流通業界および大学・研究機関など多角的立場からの意見交換を行い、資源循環型肉牛生産の意義浸透を図ってゆきます。

### 3. 開催団体及び後援団体：

- 共 催：環境リサイクル肉牛協議会、日本産肉研究会、帯広畜産大学、北海道アンガス牛振興協議会、北海道短角牛振興協議会
- 後 援：北海道十勝総合振興局、帯広市、十勝農業協同組合連合会、北海道総合研究機構畜産試験場、北海道酪農畜産協会、北海道オーガニックビーフ振興協議会、芽室町農業協同組合、NHK帯広放送局、北海道新聞帯広支社、日本農業新聞北海道支所、十勝毎日新聞社

4. 開催日時/開催場所：

日 時：平成 30 年 11 月 8 日(木) 13:00-17:00

会 場：帯広畜産大学 講堂

5. 参加費： シンポジウム・現地検討会 無料、  
意見交換会 一般 3,500 円 学生 2,000 円

6. シンポジウムの内容： 講演要旨集参照

1) 基調講演 「家畜の福祉と肉牛生産」

(株)グッドテーブルズ 山本謙治社長

2) 話題提供 1. 「欧州諸国の有機畜産とアニマルウェルフェア関連法制  
との位置付け」 立教大学経済学部 大山利男准教授

話題提供 2. 「アニマルウェルフェアの評価基準」

帯広畜産大学 瀬尾哲也准教授

話題提供 3. 「有機畜産の理想と現実」

北里大学獣医学部附属 FSC 八雲牧場 小野泰係長

話題提供 4. 「大自然を家庭の食卓に『ボーンブロス・八雲』について」  
公式通販ショップルルド 諸江栄美代表

話題提供 5. 「赤身評価の最近情報」

帯広畜産大学 口田 圭吾教授

3) パネルディスカッション パネラー：講演者、消費者代表

4) 意見交換会 eびーふ大焼肉パーティー 帯広畜産大学 逍遙舎

口田研究室協力食味試験 (17:30~)

5) 現地検討会：11 月 9 日(金) 10:00

大樹町 (榎坂根牧場 アニマルフェア認定酪農家

7. 参加者数：

1) シンポジウム 160 名 道内肉牛生産者、管内農業団体関係者、通業  
界関係者、消費者団体関係者、大学・試験研究機関関係者

2) 意見交換会 90 名

3) 現地検討会 33 名

8. 実行委員：嶋村義文、小笠原英毅、渡邊康一、内藤順介、高橋祐之、花  
房俊一、佐藤幸信、口田圭吾、青山次郎、奈良岡善之

事務局：特定非営利活動法人 環境リサイクル肉牛協議会 事務局

日本産肉研究会 事務局

## 9. 事業総括：

- 1) シンポジウム：基調講演では家畜の福祉と肉牛生産の現状について論説が展開されました。また、話題提供として実際行われているアニマルウェルフェアの海外実情とこれから設定される基準および課題点、また実際生産されている牧場や末端流通事例等が紹介されました。また赤身評価の最新情報が紹介されました。これらの講演とパネルディスカッションを通じて、アニマルウェルフェア/家畜の福祉と肉牛生産と今後の取り組みの重要性が明確にされました。
- 2) 試食会・意見交換会：アンガス未経産・経産牛の料理別のブラインド試食会を行いました。結果、年齢では遜色なく食することができることが評価されました。
- 3) 現地検討会:アニマルウェルフェア認定され実践している酪農家を視察し意見交換を行いました。
- 4) 企画と今後の展開：  
本活動はわが国の牛肉生産についての生産・流通・消費の立場横断的意見交流の機会として本年度で15回目を迎えた。日本産肉研究会の同時開催の相乗効果もあり、参加者数は九州から北海道各地と全国から160名参集しました。生産者、流通、消費者層、学生、普及・研究機関等多様で、アニマルウェルフェアの必要性和資源循環型牛肉生産の意義を広く知らせたいという主催者の趣旨は理解されたと思われます。

シンポジウム事務局：(特非) 環境リサイクル肉牛協議会 理事花房俊一

シンポジウム申込み・問い合わせ先：

(地独)道立総研機構 畜産試験場佐藤幸信



帯広畜産大学 講堂 シンポジウム基調講演 話題提供



パネルディスカッション



eびーふ大焼肉パーティー 帯広畜産大学 逍遙舎



現地検討会：11月9日(金)大樹町  
(株)坂根牧場アニマルフェア認定酪農家